

製作 セノフィルム
監督 ジャン・ポール・フェルブス
音楽 アラン・ヒエール
オリジナル・サウンドトラック
"MY LIFE" (コロムビア・レコード)
フランス映画 / カラー作品
配給 東映株式会社

The END

ジ・エンド

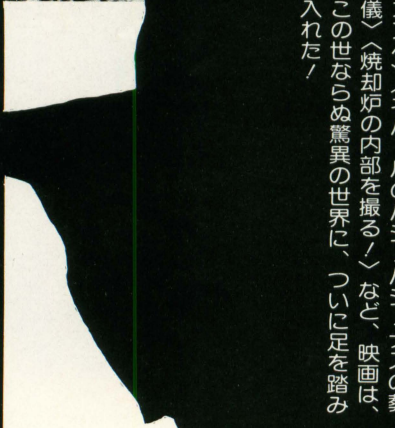
◆死の瞬間・最後の残酷!!
人類のヘタブーンに初めて挑戦 / 世界14ヶ国に衝撃ロケーション敢行 /
戦慄の儀式—その全貌—



The END

ジエンド

映画はついに触れてはならぬタブーの世界に、踏みこんでしまった!



●「世界残酷物語」「グレート・ハンティング」「カラストロフ」「ジャンク」(残酷)という言葉さえ、もはや生やさしいこれらの映画は、数多く日本でも公開されてきたが、その衝撃度をさらに揺さぶるシヨック・ドキュメンタリーの決定版が、81年ついに上陸する。あなたの身にも刻々と足音を立てて忍びよる魔の瞬間を直撃する、これが映像許容度の限界。

●世の中の動きがすべて曖昧模糊とした現代、唯ひとつの確かな事実——それが、THE・END(死)である。人間、誰でもがいつかは経験しなければならぬことでありながら、人々は毎日の生活の中で、その不安の原点から目をそむけ、不感症となつて生きている。が、現代に於いて、生きるという事は、殆ど死と隣りあわせになつていると云つても過言ではない。日常のふとした曲り角にも、死は待ちうけている。災害や事故、戦争、病氣などを含めれば、我々の周囲には、死に直結するものが、あまりにも多すぎる。偶発的な出来事だけでなく、我々人類は、誰もが、この世に生れ、育ち、子孫を残し、老い、そして、或る日、死を迎える。この地上の生きとし、生けるものは、すべて同じようなプロセスで生き、死んでゆく、この循環のくり返し、積み重ねこそ歴史と言ふものなのか。

●このドキュメント・フィルムは、メキシコ、ブラジル、アメリカ、イタリヤ、韓国、タイ、ネパールなど、世界14ヶ国に大ロケーションを敢行。各国の、想像を絶する血ぬられた死の儀式を激撮したフィルムの中から、特にTHE・ENDという題材にふさわしいものを精選したスーパー・リアリズム。ひとつの記録映画という枠をこえた、このフィルムは、80年代に叩きつける死の黙示録だ。

●開巻からエンドマークまで、最も身近な事実であり、真実である、この現象を描破して、あなたの眼を最後まで画面に釘づけにさせることだろ。身の毛のよだつ恐怖と残酷。屍臭まきちらす地獄の映像。戦慄のエキゾーストの数々が、あなたをとらえて離さない。

○タイ・モン族の儀式
老婆の霊をなくさめるための残酷かつ、厳肅なる儀式。死者となつた老婆の肉体は、腐りはじめ、顔は次第に崩れてゆく。屍汁のしたたりが画面にフロー・ス・アップされる。
○サンフランシスコの死体防腐処理師
腹部から胸にかけて、切開され内臓がとり出される。そして、遺体の左右の足の大腿部の動脈の中に、防腐液が注入され、頭動脈にも注入される。
○フェルナンデスの大手術
ナイフを腹に突き立てられ、内臓に達するほどの重傷を負つた瀕死のフェルナンデス。全身麻酔、大量の輸血、酸素吸入、ありとあらゆる現代医学の技術を動員して、手術が施された。

他に、(メキシコ闘牛場の惨事) (冷凍人間カプセル) (恐怖のミイラ) (タイのアンバーサンサイの葬儀) (人間解剖) (地下墓地カタクンベ) (ネパールのバシユバシユナスの葬儀) (焼却炉の内部を撮る) など、映画は、この世ならぬ驚異の世界に、ついに足を踏み入れた!

■スタッフ■ 製作/ゼノ・フィルム
監督/ジャン・ポール・フェルブス
ドミニク・ガルニー
チェリ・ゼノ
音楽/アラン・ピエール
オリジナル・サントラ盤
「MY LIFE」(コロムビア・レコード)
フランス映画/カラー作品
配給/東映株式会社

4月11日(土)より 新宿東急 (200) 1981 池袋東急 (971) 2727 上野東急 (831) 6620 丸の内東急 (535) 4740

衝撃のロードショー・共通前売券発売中! ¥1200 (当日一般1500円の処) ¥1100 (当大生1300円の処)

■上映時間 (各館共通)						
日・祝	11:00	12:50	2:45	4:40	6:35	
平日		12:50	2:45	4:40	6:35	